

令和4年度 授業評価アンケートに関する
相互評価による指導・助言の為の
相互評価報告書

令和4(2022)年9月

自己評価大学：長崎短期大学
相互評価大学：西九州大学短期大学部

【相互評価報告】

1. 総評

長崎短期大学における授業評価アンケートは平成 27 年度から Web アンケートに移行し 8 年間実施されている。アンケートの結果は IR 業務担当者によって回答者の属性や授業形態などに分類して分析されている。また、教員へのフィードバックやティーチングポートフォリオへの活用、IR 業務担当者による質問項目の見直しと質問項目の追加など、教育の質保証に向けた改善がなされている。

これまでの分析とは違う視点での分析が今後なされるとのことで、授業評価アンケート結果を活用したさらなる改善が期待される。

2. 視点ごとの評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

長崎短期大学ではクォーター制を導入されているため、年に 4 回（1 クォーターおよび 3 クォーター終了後）アンケートを実施されている。アンケート調査実施期間は 2 週間程度設定され、延べ対象者は 7500 名程度、対象科目数は 205 科目となっており、全学的な評価が行われている。一方で、令和 3 年度は回答率が低下していたが、例年一定数の回答を得ており、経年比較による分析が可能となっている。質問項目は授業の方法や理解度が示されており、授業改善に資するものだと考えられる。

視点② IR 業務を担当する者による分析

授業評価アンケートの結果は、「学科別」「学年別」「開講形態別」に分類し、質問項目ごとの平均値を一覧表として分析し、ホームページ等で公開されている。今後の更なる改善としてクロス分析を取り込むことが検討されている。IR 担当者を中心として授業評価を教育の質改善と捉え、質問項目を追加するなど PDCA サイクルによる改善がなされていると評価できる。

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

授業評価のアンケート集計結果は大学改革 IR 委員会および運営会議の場において報告・フィードバックがされている。教員は授業評価の結果を基にティーチングポートフォリオを作成し、ホームページで公開されている。これらは教員自らが学生の意見によって授業改善を図るものであり、分析結果が適切に行われている。

上記のとおり、評価しましたので、報告します。

令和 4 年 9 月 20 日

評価者：学校法人永原学園 IR 室長 福元健志